

記録表 発行日	2019年7月26日	検印
注番	U-	米田

(自走式)木材リサイクル機械
CJ受入35項目検品表

中京重機株式会社
 465-0057 愛知県名古屋市長区陸前町1705
 サービス部 フィールドサービスグループ
 TEL: 052-701-5191 / Fax: 052-701-5193

メーカー名	諸岡	型式	MC-2000	機械所有者	様
製造(シリアル)番号	2199	アワメーター	7226HR	検査年月日	2019年9月3日(火)
エンジン型式		検査者名	筑摩	検査実施場所	本社内 日進ヤード ()
エンジンシリアル		特自検	特自検ステッカー 有・無 / 点検日 年 月 / 点検者		

※ エンジン始動後、ローアイドル(低速回転)にして、無負荷運転を約5分間実施の事

区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	評価	備考		
エンジン	1	本体	a. 始動/停止性	かかり具合、異音、予熱栓・ヒーターの作動、ソレノイド	目視 or 操作 or 聴診	A B C D E		
			b. 回転の状態	アクセルの作動、回転具合		A B C D E		
			c. 排気の状態	排気色、排気音、吹き返し、マフラー外観の欠陥によるガス漏れなど		A B C D E		
			d. ブローバイガス	漏れ具合、漏出量		A B C D E		
			e. エアークリーナー	ケースの亀裂、変形、エレメントの汚れ、損傷		A B C D E		
			f. 過給機(ターボ)	異常振動、ガス漏れ、潤滑油漏れ		A B C D E		
			g. エンジン圧縮	エンジン内部コンプレッション圧計測		測定器を使用して 測定	A B C D E	Mpa
			h. 背圧	ブローバイ量の計測		測定器を使用して 計測	A B C D E	0.9L/min
	2	潤滑装置	油量、汚れ、白濁、油漏れ、エレメントの汚れ(滲み)、損傷	目視	A B C D E	ゲージ		
	3	燃料装置	燃料滲み漏れ、詰まり	目視 or 触診	A B C D E			
	4	燃料タンク	ドレンコックから水抜き実行、燃料の汚れ具合	目視	A B C D E			
	5	燃料油種	軽油・灯油・A重油・茶灯油	目視 or 嗅診	A B C D E			
	6	冷却装置	a. クーラント	水量、濃度、汚れ(サブタンク水量: 満・中・少・無)	目視 or 触診	A B C D E	クーラント濃度 -10度	
b. 水漏れ			ウォーターホース、ドレンバルブ、キャップ機能チェック	A B C D E				
c. ラジエータ			外側コア(フィン)の目詰まり、汚れ、凹み、水漏れ	A B C D E				
d. オイルクーラー			外側コア(フィン)の目詰まり、汚れ、凹み、オイル漏れ	A B C D E				
e. ベルト/ウォーターポンプ			たわみ、摩耗、損傷、ガタの有無と程度	A B C D E				
f. 水温計			正常(適温)表示	A B C D E		不良		
g. その他			ファンカバーやダクトの亀裂有無・損傷及び変形など	A B C D E				
7	電気装置	オルタネータ機能、バッテリー液量、ターミナル緩み、腐食、リレー状態 搭載バッテリー型式 ⇒ [195-G51]	目視 or 触診 or 電圧計 目視	A B C D E	電圧 約 28V(ボルト)			
走行装置	8	走行コントロール	前後発進停止、左右操舵(リモコン操作も同様)	操作	A B C D E			
	9	起動輪・遊動輪	クラック、変形、摩耗、異音、異常発熱、取付ガタ、油漏れ	目視 or 触診 or 聴診 or 探傷剤	A B C D E			
	10	上部ローラー・下部ローラー	クラック、変形、摩耗、異音、異常発熱、取付ガタ	目視 or 触診	A B C D E			
	11	履帯	ゴム	欠け、劣化、摩耗、亀裂傷、スチールコード切断、損傷、心金脱落、たわみ	目視	A B C D E		
			鉄/PAD	(シュー)クラック、変形、摩耗、シューボルト・ナット取付緩み、リンク・ブッシュクラック/欠け、ピッチ伸び、たわみ、固着		A B C D E		
	12	履帯調整装置	作動、調整ボルト損傷、変形、腐食、摩耗、シリンダー油漏れ	目視 or 操作 or 探傷剤	A B C D E			
13	走行減速機	油量、異音、異常発熱、ケースクラック、損傷、油漏れ ※減速機の油量チェックは必須の事	目視 or 聴診 or 触診	A B C D E				
作業装置	14	投入部	a. ホッパ	正転逆転作動状態、ホッパーモータ出力スロケットおじぎ	目視 or 操作 or 触診	A B C D E		
			b. 駆動チェーン	駆動チェーン緩み、連結ピン脱落、グリス塗布	目視 or 操作 or 触診	A B C D E		
	15	破砕部	a. カッタ	ビット(固着の有無)、カッタプレート摩耗、軸ゆがみ	目視 or 触診	A B C D E		
			b. カッタドラム	入出カシヤトケース内状態、チェーン摩耗、キーの損傷、グリス量	開閉目視 or 触診	A B C D E	ドラムをハールで可動チェック	
			c. スクリーン	スクリーン内(破砕室)側摩耗、割れ、凹み	目視 or 触診	A B C D E		
	16	過負荷	d. ドラム	木をドラムに挟み過負荷状態にて10分	実施 未実施			
17	一投入(フロア)コンベア	スピード調整可否、正転逆転作動、張力の緩み、	目視 or 操作	A B C D E				
18	一磁選機	作動可否、張力の緩み、ゴムの劣化・亀裂有無など	操作 or 吸着確認	A B C D E				
油圧装置	19	作動油タンク	残油量(適量・中・少・無)、ゲージの汚れ	目視	A B C D E			
	20	コントロールバルブ	油漏れ、異音	目視 or 聴診 or 触診	A B C D E			
	21	油圧メインポンプ	油漏れ、異常振動、異音	目視 or 聴診 or 触診	A B C D E			
	22	ホッパモータ	油漏れ、異常振動、異音、異常発熱	目視 or 聴診 or 触診	A B C D E			
	23	カッタモータ	油漏れ、異常振動、異音、異常発熱	目視 or 聴診 or 触診	A B C D E			
	24	コンベアモータ	油漏れ、異常振動、異音、異常発熱	目視 or 触診	A B C D E			
	25	油圧ホース類	接続、カシメ部の漏れ、損傷、劣化、摩耗	目視 or 触診	A B C D E			
	26	油圧シリンダ	ホッパ開閉シリンダ	自然沈下、油漏れ、伸縮不良、サビ、傷、曲がり、該当しない	目視 or 操作	A B C D E		
			コンベア昇降シリンダ	自然沈下、油漏れ、伸縮不良、サビ、傷、曲がり、該当しない	目視 or 操作	A B C D E		
スクリーン開閉シリンダ			自然沈下、油漏れ、伸縮不良、サビ、傷、曲がり、該当しない	目視 or 操作	A B C D E			

区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	評価	備考
安全装置・車体関係等	27	座席	座席調整、ロック作動、取付ガタ、損傷、穴あき	目視 or 操作	A B C D E	
	28	昇降設備	亀裂、損傷、変形、取付ガタ	目視	A B C D E	
	29	灯火装置、警報器、方向指示器	作動、取付ガタ、レンズ破損、浸水	目視 or 操作	A B C D E	
	30	計器類	作動	操作目視	A B C D E	
	31	セキュリティ	イモビライザー、電子Key、隠しスイッチ、パスワードなど	操作	有 無	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	32	反射鏡、後写鏡	汚れ、損傷、破損	目視	A B C D E	
	33	給油脂	給油脂状態	目視 or 操作	A B C D E	
	34	キャノピー	亀裂、変形、腐食、アクリルのガタつき、破損、錆つき	目視 or 操作	A B C D E	
	35	レバー類	効き、操作、変形、損傷、はずれ	目視 or 操作	A B C D E	
	36	非常停止装置	作動状態	操作	良 不良	

実機械状態から具体的な検査結果報告(特記事項がなければ未記入で可)を記載の事

No.1 ・エアクリーナ蓋破損、クリーナ汚れ、スロットルケーブル破損

No.2 ・エンジンオイルパン合わせ面よりオイル漏れ跡

No.3

No.4

No.5 ・カバー変形、オイルクーラホースオイル漏れ

No.6

No.7

No.8

No.9

No.10

No.11

No.12

No.13 ・ホッパーローラ取り付け不良

No.14 ・カッタードラム減り、カッター反転異常

No.15

No.16

No.17

No.18

No.19

No.20 ・調査オイル漏れ、ホースオイル漏れ

No.21

No.22 ・調査オイル漏れ

No.23

No.24

No.25

No.26 ・無し

No.27

No.28 ・フレームサビ

No.29 ・タコメータ不良

No.30

No.31

No.32

No.33 ・走行レバー硬い

No.34

No.35

No.36

備考

1. 検査結果を評価欄の5段階評価(A~E)の中で該当する程度・状態を○で囲む。
2. 検査結果に異常があった場合には、右頁の該当番号欄へ具体的な不具合結果を記入の事。

概要評価基準

- A: 新品に近く非常に良好な状態の場合
- B: 摩耗・損傷が少なく良好な状態の場合
- C: 稼働時間相当の摩耗・損傷があるが、継続使用が可能な状態の場合
- D: 稼働はするが修理が必要な状態の場合
- E: 即修理をしないと稼働しない状態の場合

個別評価基準(残存率による評価の場合は%を参照)

- A: 新品に近く非常に良好な状態の場合 / 100~90%
- B: 摩耗・損傷が少なく良好な状態の場合 / 90~70%
- C: 稼働時間相当の摩耗・損傷があるが、継続使用が可能な状態の場合 / 70~40%
- D: 稼働はするが修理が必要な状態の場合 / 40~20%
- E: 即修理をしないと稼働しない状態の場合 / 20~0%